平成27年6月9日　第2370号

惚れ² 営農NEWS

露地ブドウ栽培でのべと病、灰色かび病、褐斑病、晩腐病などの防除を徹底してください

6月に入り、8日には梅雨入りとなりました。

6月4日発表の気象1か月予報によりますと、「平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう」と予想され、これから降雨や多湿の日が続きますと、ブドウのべと病、灰色かび病、褐斑病、晩腐病などの感染や発病の好適な環境になり、発生が多くなってきます。

今後、ブドウ園における観察を丁寧に行い、参考防除例に基づく防除を励行するとともに、発病を確認したら必要に応じて防除を追加実施してください。

特に近年は、べと病や褐斑病が多発生する傾向にあり、早期落葉を生じて問題となる場合があります。また、晩腐病もこれから長い感染や発病期に入りますので、発病初期の防除徹底が特に重要になります。

＜防除のポイント＞

1　雨よけ栽培は、べと病、灰色かび病、褐斑病、晩腐病などの発病を抑制しますので、積極的に導入しましょう。また、晩腐病に対して傘かけや袋かけは、高い防除効果が認められています。

2　初発生の早期発見に努め、発病葉や果房は次の伝染源となりますので早急に除去し、園内に放置せず土中に埋めるなど適切に処分してください。

3　誘引などの管理作業により、園内の風通しや棚面の明るさを十分に保つように努めてください。

4　前年に多発した園では、平成27年版「露地巨峰病害虫参考防除例」や下記の防除薬剤を参考に、袋かけまでは散布間隔が10日以上空かないように薬剤散布に努めましょう。

5　薬剤散布の次回予定日に降雨が予想されている場合は、散布を延期せずに、降雨前に散布するよう努めてください。また、散布後に連続的な降雨や強い降雨があった場合は、状況に応じて散布間隔を短くすることも大切です。

6　薬剤散布量は10ａあたり250ℓを目安に、丁寧に散布してください。圃場の周辺部など薬液のかかりにくい場所には、手散布などにより補正散布を行ってください。

7　**薬剤によっては、幼果期以降の薬剤散布で果粉溶脱や果実の汚れが生じる恐れがありますので、農薬のラベルに書かれた使用上の注意事項をよく確認してください。**

表１　ブドウべと病、灰色かび病、褐斑病、晩腐病の主な防除薬剤（平成27年6月9日現在）

対象病害				薬剤名	希釈倍率	使用時期　／　使用回数
べと病	灰色かび病	褐斑病	晩腐病			
○				ランマンフロアブル	1,000～2,000倍	収穫14日前まで／3回以内
○				ベトファイター顆粒水和剤	2,000～3,000倍	収穫30日前まで／3回以内
○				レーバスフロアブル	2,000～3,000倍	収穫7日前まで／3回以内
○		○	○	ホライズンドライフロアブル	2,500～5,000倍 2,500倍	収穫21日前まで／3回以内
○	○	○	○	オーソサイド水和剤８０	800倍	収穫45日前まで／2回以内
○	○		○	アリエッティＣ水和剤	400～800倍 800倍 400～600倍	収穫45日前まで／2回以内
○		○	○	ジマンダイセン水和剤または ペンコゼブ水和剤	1,000倍	収穫45日前まで／2回以内
	○	○	○	オンリーワンフロアブル	2,000倍	収穫前日まで／3回以内
	○	○	○	アフェットフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで／3回以内
	○			フルピカフロアブル	2,000～3,000倍	（開花期～幼果期） 収穫30日前まで／2回以内
	○		○	スイッチ顆粒水和剤	2,000～3,000倍	収穫30日前まで／2回以内
	○			パスワード顆粒水和剤	1,000～1,500倍	収穫14日前まで／2回以内
	○	○		インダーフロアブル	8,000倍	収穫30日前まで／3回以内

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

全農　JA全農いばらき
生産資材部　営農企画課
電話：029-291-1012　FAX：029-291-1040